



脳卒中について

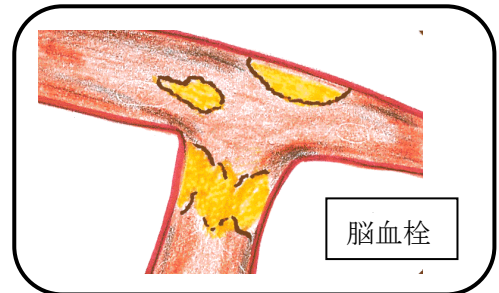
脳卒中とは「突然悪い風にあたって倒れる」という意味で、昔から恐れられていました。今でも依然として死因の第3位を占め、がん、心臓病と共にいわゆる3大成人病（生活習慣病）として関心をもたれています。

脳卒中は脳の血管が詰まったり破れたりして、半身マヒや意識障害、話せない、感覚が鈍い、ふらつく、視野が狭い、などの症状が起こるものです。そしてたとえ命は助かっても、体のマヒや言葉の障害が残って日常生活に不自由をきたすことが多い病気です。

脳卒中は（1）脳梗塞（2）脳出血（3）くも膜下出血（4）一過性脳虚血発作に分類されます。

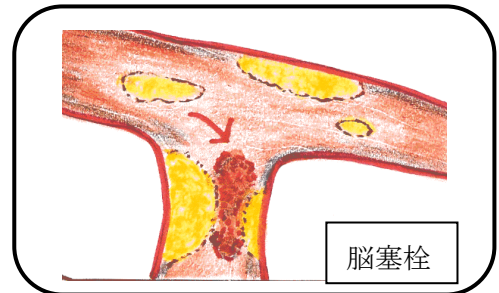
（1）脳梗塞

現在の脳卒中の中で一番多いのがこれです。脳の血管が動脈硬化を起こして細くなり血流が途絶える場合を脳血栓と言い、心臓などでできた血液のかたまりが詰まる場合を脳塞栓と言います。最近では早期ならば、血栓を溶かす治療などにより被害を最小限にする治療もあります。



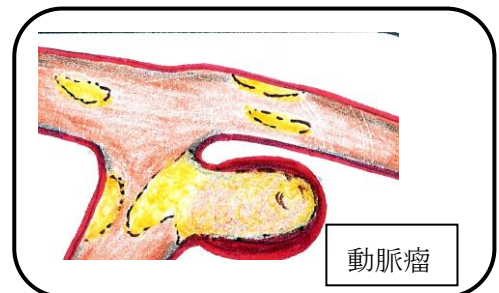
（2）脳出血

脳の血管が動脈硬化によってもろくなっている時に血圧が高くなると動脈が急に破れて脳の中で出血が起こります。昔はこれが多かったのですが、高血圧の治療がされるようになってから減ってきました。



（3）くも膜下出血

脳の血管に動脈瘤（血管がふくらんでこぶ状になったもの）があり、それが突然破れて起こります。何の前ぶれも無く突然激しい頭痛に襲われ、一時的に意識を失ったり昏睡状態になったりします。高血圧や動脈硬化とは必ずしも関係しません。



（4）一過性脳虚血発作

動脈硬化のために一時的に起こる血流障害で数分～一時間以内に消失し、脳血栓の前ぶれです。片側の手足のしびれ・マヒ、脱力、舌のもつれ、口がきけないなどの症状が一時的にでます。すぐに診察を受けたり治療する必要があります。

このようにほとんどは動脈硬化が原因で起こるものですから、脳卒中を防ぐためにはその予防がたいせつです。高血圧や高脂血症、糖尿病の治療をきちんとする。また、禁煙、酒を飲み過ぎない、過労やストレスをためない、適度に運動するなどの日常生活上の注意が大切です。